# 令和４（2022）年度「卒業生採用に関するアンケート調査」結果概要

## Ⅰ．調査時期、対象施設、回収結果

調査時期：令和５（2023）年１月
対象施設：令和３（2021）年度卒業生就職先

| | 対象施設 | | 回収数 | 回収率 |
|---|---|---|---|---|
| | 施設数 | 件数 | | |
| 看護科 | 40 | 64 | 44 | 69% |
| 医療介護福祉科 | 11 | | 8 | 73% |

・対象施設　　：看護科では１施設あたり複数部署に送る場合があるため、施設数と件数を示している
・回収数・回収率：看護科は件数、医療介護福祉科は施設数を示している
※なお、アンケート結果については学科名称変更前のため看護科、医療介護福祉科とする。

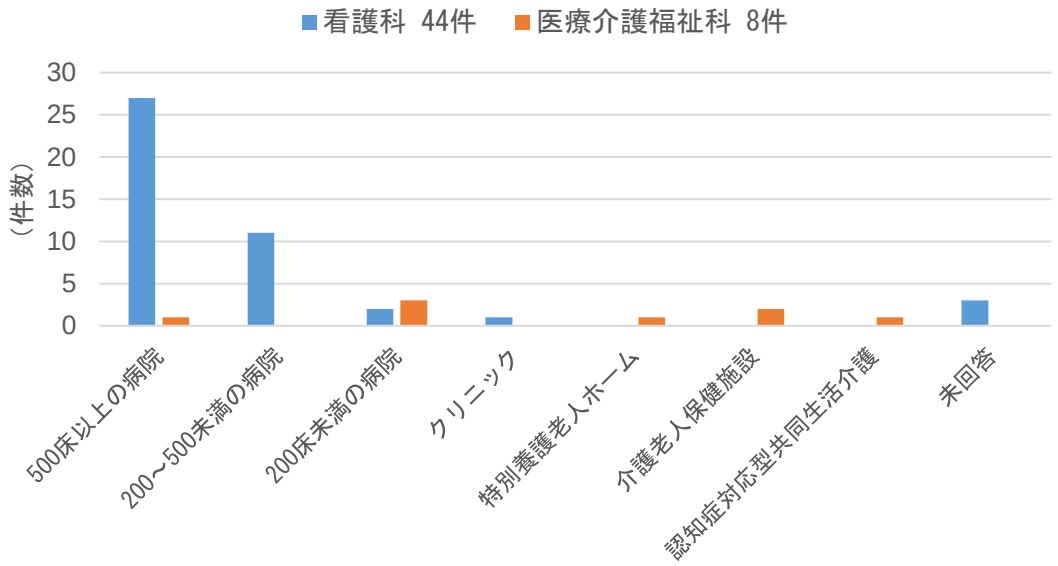
## Ⅱ．アンケート結果および分析

### １　施設基本事項（得られた回答数を示す）

#### 1）地方・都府県別

| 地方 | 都道府県 | 看護科 | | 医療介護福祉科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 地方別 | 都道府県別 | 地方別 | 都道府県別 |
| 近畿地方 | 兵庫県 | 8 | 8 | | |
| 中国地方 | 岡山県 | 31 | 27 | 7 | 6 |
| | 広島県 | | 1 | | 1 |
| | 山口県 | | 1 | | |
| | 鳥取県 | | 1 | | |
| | 島根県 | | 1 | | |
| 四国地方 | 香川県 | 1 | | 1 | 1 |
| | 愛媛県 | | 1 | | |
| 九州地方 | 鹿児島県 | 1 | 1 | | |
| 未回答 | | 3 | | 0 | |

#### 2）種別



## ２　調査項目

### Ａ　採用について

1) 2)は、それぞれの項目について、5段階（5：重視している、4：やや重視している、3：どちらともいえない、2：あまり重視していない、1：重視していない）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。
3)は、当てはまるものを全て選ぶ質問。両学科とも、学科ごとの総回答数（回収数から未回答数を引いたもの）に対する％で示した。

1) 組織で職務遂行上、重視する能力

| | 項　　目 | 看護科 | 医療介護福祉科 |
|---|---|---|---|
| ① | 主体性 | 4.5 | 4.4 |
| ② | 他人に働きかける力 | 4.4 | 4.3 |
| ③ | 実行力 | 4.4 | 4.1 |
| ④ | 課題発見力 | 4.3 | 4.3 |
| ⑤ | 計画力 | 4.1 | 3.8 |
| ⑥ | 創造力 | 3.9 | 4.1 |
| ⑦ | 発信力 | 4.0 | 4.1 |
| ⑧ | 傾聴力 | 4.6 | 4.5 |
| ⑨ | 柔軟性 | 4.7 | 4.8 |
| ⑩ | 状況把握力 | 4.5 | 4.4 |
| ⑪ | 規律性 | 4.5 | 4.5 |
| ⑫ | ストレスコントロール力 | 4.6 | 4.1 |

未回答：看護科4（うち、1件は採用担当でないため不明とあり）
その他重視している事項（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは1件）
看護科6：コミュニケーション能力(2)、素直さ・誠実さ、接遇力、継続して学ぶ姿勢・人となり、タフさ
医療介護福祉科4：介護福祉士としてのプロ意識、協調性、他職種との連携、対人感受性

2) 採用時に重視する能力

| | 項　　目 | 看護科 | 医療介護福祉科 |
|---|---|---|---|
| ① | 基礎学力 | 4.1 | 3.8 |
| ② | 専門知識・技術 | 3.7 | 3.8 |
| ③ | 職務遂行能力(意欲、段取り力、実行力) | 4.2 | 4.4 |
| ④ | 倫理観 | 4.7 | 4.4 |
| ⑤ | 社会性（公共心、誠実性、責任感） | 4.6 | 4.5 |
| ⑥ | コミュニケーション能力 | 4.7 | 4.5 |
| ⑦ | 対人関係・仕事の協調性 | 4.5 | 4.8 |
| ⑧ | 基本的マナー | 4.5 | 4.6 |
| ⑨ | 課題解決能力 | 4.0 | 3.6 |

未回答：看護科3（うち、1件は採用担当でないため不明とあり）
その他重視している事項（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは1件）
看護科2：素直さ(2)・謙虚さ・笑顔
医療介護福祉科1：素直さ

3）面接時に注意してみる態度

| | 項　　目 | 看護科 | 医療介護福祉科 |
|---|---|---|---|
| a | 入退出時の挨拶 | 61% | 63% |
| b | 服装・身なり・髪型 | 70% | 75% |
| c | 顔の表情 | 64% | 75% |
| d | 話し方・言葉遣い | 82% | 88% |
| e | 声の大きさやトーン | 41% | 50% |
| f | 話を聞くときの姿勢 | 73% | 75% |
| g | 話しているときの姿勢 | 52% | 50% |
| h | 目線の方向や動き | 64% | 50% |

未回答：看護科 6
その他重視している事項（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは 1 件）
看護科 5：間合い、質問に対する返答が的を射ているかどうか・自分の思いを伝えられるかどうか
質問内容：興味・動機を聞く、集合時間の厳守、電話の対応
医療介護福祉科 2：人を思いやれる考え方、自分の考えを持ち言葉で表現できる

Ｂ　採用した本学の卒業生について

1）2)は、それぞれの項目について、5 段階（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。
3）5）7)は、自由記述。
4)は、5 段階（5：満足、4：やや満足、3：どちらとも言えない、2：やや不満、1：不満）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。
6)は、学科ごとの総回答数（回収数から未回答数を引いたもの）に対する％で示した。

1）本学卒業生の印象

| | 項　　目 | 看護科 | 医療介護福祉科 |
|---|---|---|---|
| ① | 基礎学力 | 3.2 | 3.6 |
| ② | 専門知識・技術 | 3.1 | 3.8 |
| ③ | 職務遂行能力（意欲、段取り力、実行力） | 3.2 | 3.6 |
| ④ | 倫理観 | 3.4 | 3.6 |
| ⑤ | 社会性（公共心、誠実性、責任感） | 3.5 | 3.4 |
| ⑥ | コミュニケーション能力 | 3.3 | 3.4 |
| ⑦ | 対人関係・仕事の協調性 | 3.3 | 3.5 |
| ⑧ | 基本的マナー | 3.5 | 4.0 |
| ⑨ | 課題解決能力 | 3.1 | 3.4 |
| ⑩ | 注意や指導を受けた後の対応力 | 3.2 | 3.8 |

未回答：看護科 2
その他の印象（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは 1 件）
看護科 5：素直で一生懸命頑張っている、相談・報告が適時に行える、個性を感じる、困っている時に自分から発言できない、おとなしい・受け身
医療介護福祉科 3:頑張っている、優しい、学校の特性というよりは個人の特性とも言える、課題に向き合い行動している。心配なのは頑張りすぎて無理をすること

2）本学看護科卒業生が身につけている能力

| 項　　目 | 平均 |
|---|---|
| 1 看護師に必要な知識とともに、専門職者としての基本姿勢と態度を備えている。 | 3.3 |
| 2 根拠に基づいた看護を提供できる実践能力を修得している。 | 3.1 |
| 3 看護専門職者としての誇りを持ち、研修・研さんを行う意欲と能力を身につけている。 | 3.2 |

未回答 2

3）本学卒業生の傾向

①他校出身者と比較して優れている部分（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは 1 件）

| |
|---|
| 看護科 19：<br>素直さ(3)、やる気と優しさ(2)、コミュニケ―ション能力(2)・積極性、先輩看護師の質問や指導を正しく理解することができる(2)。自律性があり学習意欲が高い、かわいらしさ、学習面、協調性、社会人基礎力、努力を続ける姿勢、忍耐力、研修での学びや実践を振り返り課題を挙げて取り組める。取り組みの成果を確認することができる、誠実で課題を出されたら時間がかかってもやりきる、あまり変わらない(2)、傾向はない(2) |
| 医療介護福祉科 7：<br>コミュニケーション能力(3)・協調性・他職種連携がとれる、社会性・一般常識、知識が豊富・利用者様への接遇、比較の対象がない(3) |

②他校出身者と比較して劣っている部分（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは 1 件）

| |
|---|
| 看護科 16：<br>課題発見力(2)、基礎学力(2)・社会人基礎力、コミュニケーション能力、思考力・分析力、積極性、発信力、環境に慣れるのに時間がかかった、あまり変わらない・特にない(7) |
| 医療介護福祉科 7：<br>積極性、比較の対象がない(3)、特にない(3) |

③過去の卒業生と比較して変わったと感じる部分（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは 1 件）

| |
|---|
| 看護科 16：<br>積極性に乏しい(2)、自分が嫌なことははっきり言う（Z 世代の特徴か)、落ち着いている、おとなしい、コミュニケーション能力の低下、基礎学力の低下、社会人基礎力の低下、コロナの影響で実習が少なかったせいか看護業務や流れについていくのが困難でリアリティショックを受けているようだった、環境に慣れるのに時間がかかった、比較の対象がない(2)、特にない(4)、 |
| 医療介護福祉科 7：<br>仕事への意欲の高さ(3)、比較の対象がない(2)、特にない(2) |

4）本学卒業生を採用したことの総合的満足度

| | 看護科 | 医療介護福祉科 |
|---|---|---|
| 本学卒業生を採用したことに対する総合的満足度 | 4.2 | 4.8 |

**5）採用した学生について気づいた点**（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは１件）

| |
|---|
| 看護科９　：<br>・早期に退職した<br>・患者とのコミュニケーションがとれない<br>・コロナ禍のためか実習が少なく、経験が不足している<br>・とても素直でいろいろ言いやすい<br>・素直に指導を受け、確実に成長している。社会性も高い<br>・意欲的に研さんする姿勢がある。大切に育てていきたい<br>・頑張ってくれている。ありがたい<br>・特にない。一生懸命頑張っている<br>・責任感がある。他校出身者との関係が良い |
| 医療介護福祉科６：<br>・コロナ禍の中、大変な業務をひたむきに頑張っている<br>・知識も行動力もあり、常に周りを見て行動できる。不安なことは相談してくれるが、頑張りすぎて心配な時がある（こちらから積極的に声をかけてケアしていきたい）<br>・入職初期にはストレスが高かったが、患者に対する姿勢が良い<br>・入職初期より確実に成長している。自信がついたようだ<br>・初めての体験を数多くしているのでこれからだと思う<br>・同世代の職員をもっと増やすことができれば楽しく働けると思うが、できずに申し訳ない |

**6）本学学生に充実を求める能力**（上位３項目の選択）

| | 項　　目 | 看護科 | 医療介護福祉科 |
|---|---|---|---|
| a | 基本的マナー | 64% | 38% |
| b | コミュニケーション能力 | 86% | 75% |
| c | 対人関係調整力 | 60% | 63% |
| d | 幅広い教養と基礎学力 | 26% | 13% |
| e | 深い専門的知識・技能 | 10% | 0% |
| f | 文章読解・表現能力 | 17% | 25% |
| g | リーダーシップ | 5% | 25% |
| h | 課題解決能力 | 45% | 50% |
| i | プレゼンテーション能力 | 5% | 0% |
| j | マネジメント能力 | 5% | 0% |
| k | コンピュータ活用能力 | 5% | 0% |
| l | 指導能力 | 2% | 0% |
| m | 外国語の能力 | 0% | 0% |
| n | 国際的視野 | 0% | 0% |

未回答：看護科２
その他充実が必要な事柄（自由記述：数字は件数、件数の記入がないものは１件）
看護科２：文章力、倫理観

**7）本学に対する意見、希望**（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは１件）

| |
|---|
| 看護科５　：<br>・引き続きよろしくお願いしたい(3)<br>・指導の先生が時々来てくださるとうれしい |

| |
|---|
| ・多くの卒業生が当院で活躍している<br>・貴校の卒業生のような学習意欲の高いスタッフがいることで他の新人看護師にも良い影響が出ている。今後の成長に期待したい。<br>・特にない |
| 医療介護福祉科５：<br>・今後とも末長くお願いしたい(3)<br>・結果はまだまだついてこないが、まじめで礼儀正しく意欲的という点がすばらしい<br>・貴校の卒業生が多く活躍されている<br>・すばらしい教育をされている |

## 今後の課題

### １　学科の課題と対策

#### 1）看護学科

本学科では、例年、大規模病院に就職する学生が多いが、小規模病院と比べて就職後の職場適応が困難になる学生もいるため、学生の特性にマッチした病院選択ができるような支援を行うことが課題であった。そのため昨年度から、就職活動支援講座の「スタートアップ講座」の中で、自分に合った病院選びに力を入れるとともに、事前に受験した本格適性診断「MATCH plus」の結果を活用した支援を行ってきた。その結果、今回のアンケート調査では、病院選択の指導を要望する意見はなかった。総合的満足度の平均値も、ここ数年の 3.9～4.0 が 4.2 に上昇し、指導の効果が現れていると思われるが、多様化する学生の増加に対応すべく、引き続き学生の特性に応じた病院選択ができるような支援を継続していく必要がある。

本学科の学生に充実を求める能力の上位は、「コミュニケーション能力」「基本的マナー」「対人関係調整力」であった。「コミュニケーション能力」は、「他校出身者と比較して優れている部分」にも「劣っている部分」にも挙がっているため、個人差が大きいものと推察される。「コミュニケーション能力」「対人関係調整力」は対人関係職の基本的素養であるため、臨地実習での指導はもとより、学内の演習等の教育方法を工夫していく必要がある。「基本的マナー」は一朝一夕には身につかない。臨地実習はもとより、学内でも日常の中で指導を行っていく必要がある。就職前の「社会人基礎力・マナー講座」も、就職後の社会人としての対応を意識してもらう意味でも引き続き実施していきたい。

#### 2）医療介護福祉学科

今回のアンケート調査の結果を踏まえて、学生たちは、大学３年間で国家試験に合格できる知識を習得するだけでなく、社会人としての規律を学び身につける必要があると考えられた。そのため、社会人にとって必要なマナーである「話し方・言葉遣い」「基本的マナー」を、１年次からの実習や講義を通して、教員が意識して指導を行っていく必要がある。

特に「コミュニケーション能力」については、入学時から苦手とする学生も多いため、講義の中でグループワーク、ペアワークを取り入れるなどの工夫を行い、自分の考えを適切に発信するとともに他者の意見に耳を傾けられるよう学生の成長を促したい。「コミュニケーション能力」と「対人関係調整力」は、利用者や患者との信頼関係を構築するためのみならず、多職種連携やチームケアを行ううえでも必要な能力であり、職員間での報告・連絡・相談にも不可欠であることから、学内外の実習を通じて、これらの能力を伸ばしていきたい。

さらに、「課題解決能力」については、１、２年次に培った知識や技術を基に、「よりよい生活支援につなぐ」ことを目標とする３年次での教育で身につけさせたい。

今回のアンケート調査では、本学科の卒業生を採用したことに対する総合的満足度の平均値は 4.8 と、高い評価をいただいた。令和４年度は本学科の卒業生はいない年度であるが、本学の就職活動支援講座は、就職や社会に出ることに対する良い意識づけになっていると思われる。これからも教員全員が協力して、学生が高い意識を持てるような教育を行っていきたい。

## ２　大学としての課題と対策

令和３（2021）年度卒業生の就職先に、令和５（2023）年１月に Google フォームを用いたオンラインアンケートを実施した。回収率は、看護科が 69%、医療介護福祉科が 73%であった。総合的満足度（1～5 の 5 段階評価）の平均値は、看護科 4.2、医療介護福祉科 4.8 と、昨年度を上回る評価をいただいた。2（やや不満）以下の評価はなかった。また、次の４つの観点から「チームで働く力」の重要性が明らかになった。

１.「職務遂行上の能力」として、両学科に共通して「柔軟性」「傾聴力」「規律性」「主体性」「状況把握力」「ストレスコントロール力」が上位であったことから、社会人基礎力のうち「チームで働く力」が重視されていることが示された。相手の話を共感的態度で聴く力、意見や立場の違いを理解できる力、協調性を持ち、状況を正確に把握しながら主体的に業務に取り組める力や対応力を養う必要がある。

２.「面接時に注意してみる態度」では、今年度の顕著な傾向として「話し方・言葉遣い」が最も重視されていた。医療福祉に携わる者として、身だしなみや姿勢、目線は、適切であって当然の項目とみなされていることがうかがえる。引き続き、身だしなみの指導に努めるとともに、「コミュニケーション能力」を身につけさせる必要がある。

３.「採用時に重視する能力」と「本学卒業生の印象」は、同じ項目で評価していただくことで、採用側の期待と本学卒業生の実際の能力との食い違いについて検討することができるようにした。看護科では、その食い違いが大きいのが「コミュニケーション能力」「倫理観」「対人関係・仕事の協調性」であった。医療介護福祉科では、「対人関係・仕事の協調性」「コミュニケーション能力」「社会性」の食い違いが大きかった。採用側が意図するコミュニケーション能力や協調性と、これらの能力に関する学生の自意識との間に食い違いがある卒業生は、現場への適応が難しくなることも推察される。昨年度に比べ、「基本的マナー」には若干の改善がみられたことから、適切にコミュニケーションがとれ、患者と利用者の尊厳を第一に考える倫理観を持った学生を育てられるような指導を引き続き行っていく必要がある。

４.「採用時に重視する能力」と「本学学生に充実を求める能力」を比較すると、両学科とも「コミュニケーション能力」「対人関係調整力」「問題解決能力」を十分に持つ学生を育成する必要があることが示された。看護科では「基本的マナー」の充実も指摘された。この結

果からも、対人援助職者として身につけておくべき対人能力や課題形成能力が、就職先の期待よりもやや低かったことがうかがえる。「本学卒業生の印象」「他校出身者と比較した本学卒業生の傾向」「採用した学生について気づいた点」は、本学の指導に対する好評価につながるものが多く、就職先とのミスマッチのご指摘も少なくなった。

○「チームで働く力」の涵養を図るために、就職活動支援講座を充実させるとともに、大学と学科が連携し、入学時のオリエンテーション、講義や演習・実習、担任の集団指導・個別指導などにおいて、繰り返し指導を行っていく必要がある。両学科ともに高い評価をいただいた素直さや意欲、頑張りといった良い資質を生かしつつ、問題に直面したときに周囲と相談したり適切に対処することのできる社会的スキルを身につけさせたい。また、入学時から３年間の学生生活を通じて、将来の職場が病院や施設であるということを認識させ、学びと社会性に対する動機づけを図るとともに、自身の看護観や介護観を考えさせ、根拠に基づいた実践ができる人材を育てていきたい。